

大学生におけるあいさつ使用の日中対照

—出会いの場面を中心に—

丁 尚 虎

要 旨

本稿では、ポライトネスの観点から大学生のあいさつを日中で比較し、その相違を検討した。日本人学生はあまり親しくない先生にはネガティブ・フェイスへの配慮を示す傾向が顕著であるのに対して、中国人学生はポジティブ・フェイスに配慮する傾向が強い。また、日本人学生は午後の時間でも親友に対して「おはよう」をポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして使うことが多いのに対して、中国人学生は、「(～) 早」をほとんど使用しない。これは「おはよう」と「(～)早」が用いられる時間帯が異なることによる。一方、日本人学生が使用する「こんにちは」と中国人学生が使用する「(～) 好」は、ほぼ同様の使用傾向を示している。

【キーワード：おはよう (～) / (～) 早 / こんにちは / (～) 好 / フェイス】

1. はじめに

あいさつとは何か、という定義の問題については、様々な議論がなされている。滝浦 (2008: 114) によると、あいさつとは「社会的な人間関係において、場面に応じて儀礼的に交わされる言葉 (や動作) のことであり、出会いと別れのあいさつ、集团的行動の開始と終了のあいさつ、感謝と詫びのあいさつなど、日常生活のほとんどあらゆる場面で見られるものである」とされる。本稿では、日本人学生と中国人学生それぞれの日常生活の場面で常に交わされているあいさつについて考察するため、上述の定義を踏まえ、あいさつを「対人関係を作り、それを維持するため、ある場面における最初と最後のポイントで、相手との関係を考慮しながら使用する社会的・儀礼的な表現」と定義する。

日本社会において、場面に適したあいさつをすることは、日本人のみならず日本語学習者にとっても極めて重要なことである。中道他 (1999) が指摘しているように、日本語を母語としない人々に日本語の指導を行う場において、あいさつは重要な指導項目であると認識されている。たとえば、施 (2005) と園田 (2006) が述べているように、日本語の「おはよう (～)」「こんにちは」「お疲れ (～)」などの使用に戸惑っている中国人留学生が少なくない。これについて、筆者は、2015年3月11日～5月24日に、中国人上級日本語学習者 (40名) を対象に、「日本人のあいさつが難しいと思うか」「一番難しいと思うところはどこにあるか」などの質問を含むインタビュー調査を実施した。その結果、中国人上級日本語学習者 (以下、学習者) が抱える困難点として、以下の3点が挙げられることがわかった。

- ①「おはよう（～）」と「こんにちは」に関する使い分けが困難である（16例）
- ②出会いの場面においてよく知らない人にどのようにあいさつすべきかわからない（9例）
- ③上位者にあいさつをする際に、敬語表現の使用を忘れやすい（4例）

これらの困難点が生じやすい場面で、日本人学生と中国人学生はそれぞれの母語で実際どのようにあいさつをしているか、その使用上の差異と学習者の困難点の間にはどのような関連性があるのかを明らかにする必要がある。滝浦（2008:114）が指摘しているように、ポライトネス・ストラテジー選択の違いに関する文化的な選好を解明しようとする対照ポライトネス論にとって、あいさつ行動の文化間比較は、それぞれの文化における人間関係のありようを最も直接的に反映する現象として格好のテーマのひとつとなる。学習者においてあいさつの使用に関する困難点が生じたのは、文化によって、ポライトネス・ストラテジーが異なることによるところが大きいのではないだろうか。学習者におけるあいさつの使用に関する困難点を明らかにすることによって、日中の文化的な違いを明らかにするとともに、日本語教育現場におけるあいさつの指導方法についての示唆を得ることもできると考えられる。

一方、日本人学生と中国人学生におけるあいさつの使用に関する従来の研究では、ポライトネスの観点による詳細な研究はほとんど見られない。本研究では、学習者が抱える困難点に基づいて、ポライトネスの観点から日本人学生と中国人学生における出会いのあいさつの使用に関する差異を明らかにし、その差異と学習者の困難点の関連性を検討することを目的とする。

2. 先行研究

本研究では、ポライトネスの観点から日本人学生と中国人学生におけるあいさつ使用の差異を考察するため、まず、ポライトネス理論について説明しておきたい。

Brown & Levinson（1987）では、人間は誰しも「フェイス」という欲求を持っているが、そのフェイスには、「他人から邪魔されたくない、押さえつけられたくない、行動を自由に選択したい」という欲求である「ネガティブ・フェイス（以下、NF）」と、「他の人に好かれたい、認められたい、尊敬されたい、評価されたい」という欲求である「ポジティブ・フェイス（以下、PF）」という二つの側面があるとされる。Brown & Levinson はこれらの概念に基づき、互いのフェイスに配慮する「ポライトネス理論」を提唱している。まず、対話の中で相手のフェイスを傷つけたり、脅かしたりする行為を「フェイス侵害行為 (Face Threatening Acts = FTA)」と呼び、話し手は聞き手のフェイスを脅かすことをできるだけ少なくするために、あるいは自分自身のフェイスを傷つけることを少なくするために、状況に応じてさまざまなストラテジーを使用するという。つまり、「on record であからさまに」、「ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー（以下、PPS）」、「ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー（以下、NPS）」、「ほのめかし」、「FTA をしない」という5つのストラテジーの中から最適なものを選んで他者とのコミュニケーションを行っているのである。次に、あいさつ表現に関する先行研究を見ていこう。学習者の困難点となっているあいさつ表現「おはよう

(～)」と「こんにちは」、およびそれらに該当する中国語のあいさつ表現の使用については、水谷 (1979)、彭 (1990)、滝浦 (2008)、曲他 (2010) が、それぞれ論じている。水谷 (1979: 5-6) によると、「こんにちは」に当たる中国語表現「你好」は、日本語の「こんにちは」と類似し、自分の仲間というよりはソトの人に対して使うあいさつであり、形式にこだわる言い方であって、家族同士など非常に身近な中国人同士で用いるあいさつではない。滝浦 (2008) も同様に、中国語における定型的なあいさつ表現としての「你好」が用いられる相手は疎または上の人間に限られ、家族や友人のような親しい人間関係ではほとんど用いられないと述べている。また、彭 (1990) は、中国では「早 (上好) (おはよう)」は、大体朝8時から9時頃までに使用される表現であり、午後になってから「早 (上好)」とあいさつすると、「朝寝坊」と皮肉を込めて言っているようであると指摘している。曲他 (2010:41) によると、1日のスタート時点で発せられた「おはよう」は、はじまり意識の「おはよう」かつウチ意識で互いに「頑張る」の意を含んでいる。これらの先行研究はいずれも、日本語のあいさつ表現「おはよう」「こんにちは」および中国語のあいさつ表現「早上好」「你好」における対人関係による使用の違いについて論じている。しかし、これらのあいさつ表現が、ポライトネスとどのような関連性を持つかについては触れていない。

前述のポライトネスの観点から日本語と中国語のあいさつを考察したものとして、劉 (2010) と施 (2012) の研究を挙げるができる。

劉 (2010:164) は、日本人学生と台湾学生における別れのあいさつの使用実態について調査したデータに基づいて、日本人は相手との距離を保つ NPS を多用するのに対して、台湾人は相手との距離を縮める PPS を多用するという結論を導いた。また、施 (2012:65) は、日中両国の大学生と社会人640人と中国人留学生100名を対象に、日常生活の中によくある「家庭」「道」「公園」「学校」「道聞き」「買い物・食事」「家庭訪問」など7場面を想定した質問を設けたアンケート調査並びに面接調査を行い、そのデータの一部を分析した。その結果、中国人は対人関係の親密意識が強く、PPS を積極的に運用しているのに対して、日本人は人間関係の「上下」を重視し、NPS を頻用しているという結論を出した。

劉 (2010) と施 (2012) の研究により、日本語母語話者と中国語母語話者におけるあいさつの使用に関するポライトネスの特徴はある程度明らかになった。しかし、あいさつについてポライトネスの観点から考察する際、あいさつをする人が PPS を用いるべきか NPS を用いるべきかを判断する基準はまだ明らかになっていない。また、日本人と中国人におけるあいさつの使用に関するポライトネスの差異は、学習者におけるあいさつの使用に関する困難点とどのような繋がりがあるかについても考察する必要がある。本研究では、これら未解決の問題点があることを踏まえて、あいさつとポライトネスの関係を明確にした上で、日本人学生における出会いのあいさつ表現「おはよう(～)」、「こんにちは」と中国人学生における出会いのあいさつ表現「(～)早 (上好)」、「(～)好」の使用に関する差異を明らかにし、その差異と学習者の困難点との関連性を探究することを目的とする。

3. 研究方法

3.1 あいさつとポライトネスの関係

前述のポライトネスの観点からあいさつ行動を考察する場合、あいさつとポライトネス・ストラテジーとの対応関係について説明しておかなければならない。Brown & Levinson (1987) の枠組みでは、ポライトネス・ストラテジーとして「on record であからさまに」、「PPS」、「NPS」、「ほのめかし」、「FTA (フェイス侵害行為) をしない」という5つが挙げられている。本研究はこれに従って、日本人が使用するあいさつとポライトネス・ストラテジーとの関係を表1のようにまとめる。

表1 あいさつとポライトネスの関係

あいさつをしない (FTA をしない)	
NF への配慮 (PF への配慮なし)	
あいさつをする (FTA をする)	
高い	PF への配慮
←	→
低い	NF への配慮
PPS として使用する傾向が高い表現	NPS として使用する傾向が高い表現
「おっす・おう・よっ・よう…」 「おはよう」 「早啊・呀…」 「呼称+早」	「おはようございます」 「こんにちは」 「早上好」 「你 (您) 好」 「敬称+ (您) 好」

Brown & Levinson (1987) によると、FTA とは、話し手と聞き手のフェイスを脅かすようなフェイス侵害行為である。たとえば、目が合ってもあいさつをしなければ、それは高いレベルのFTA(マイナス待遇)である。よほど仲が悪いか、または喧嘩を売っていると思われる可能性もある。しかし、このような場面は極端な例である。本研究では下記の3.2に示す場面1と場面2について、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「親友」、「あまり親しくない先輩」、「親しいと思う先輩」という5つの対人関係を設定した。この二つの場面及び5つの対人関係で、被験者がマイナス待遇をする可能性はかなり低く、考慮に入れなくても差支えないと考えられる。そこで、本研究ではそれを対象外とし、「あいさつをしない」ことをFTAとはみなさないこととする。

あいさつをしない場面としては、他に二つの状況がある。一つは、話し手本人による自分自身の「他人に邪魔されたくない・踏み込まれたくないという欲求」、つまり、NFへの配慮である。たとえば、あまり親しくない先生に出会った場合、目が合えばあいさつしなければならないが、そうでなければ、面倒くさいとか恥ずかしいとか、そういう感情があって、あいさつをしないケースもある。もう一つの状況は、相手のNFへの配慮である。たとえば、学生は、その先生の授業に出たことがあるが、100人以上のクラスである場合、その先生のことを知っているもののその先生が必ずしも自分のことを知っているわけではないため、その先生に出会ってもあいさつをしないケースもある。この場面において、学生がその先生に出会ってもあいさつをしないのは、マイナス待遇ではなく、その先生のNFを満たすためである。要するに、あいさつをしない場合は、自分のNFへの配慮あるいは相手のNFへの配慮であるといえる。そして、「あいさつをしないこと」には、表1

に示しているように PF への配慮は含まれていない。

一方、あいさつをする場合、ほとんどすべてのあいさつは潜在的に相手や自分のフェイスを侵害する行為 (FTA) である。また、表 1 に示したように PF (および NF) への配慮があることになるが、場合によって配慮の度合いが異なっている。あいさつをする場合、二つの状況がある。一つは、PF への配慮を優先することである。定型的あいさつ表現にせよ非定型的表現にせよ、丁寧体が付いていない形 (「こんにちは」のような丁寧体の形をとらない表現を除く) で現れる場合、相手の PF への配慮が高い (PPS) といえる。たとえば、「おはようございます」や「お疲れ様です」のような改まった表現を使用せず、わざわざ「おはよう」や「お疲れ」のようなくだけた表現を使用すれば、相手に親近感を伝える意味合いも強くなるので、相手の PF への配慮が高いといえる¹。もう一つの状況は、NF への配慮を優先すること (NPS) である。たとえば、「おはようございます」や「お疲れ様でした」のような丁寧体が付いているあいさつ表現は、相手の存在を認めたこと (相手がそこにいることに気がついた) を表すと同時に、相手に尊敬の気持ちを表す意味合いもある。ただし、滝浦 (2008) が指摘しているように、日本語の敬語は、ネガティブ・ポライトネスの働きを持つものである。「おはようございます」や「お疲れ様でした」は、日本語の敬語として相手との距離を取ろうとする気持ちがあるため、相手の NF への配慮の度合いが高い²。なお、「こんにちは」のような丁寧体の形をとらないあいさつ表現は、敬語とは言えないにしても、丁寧体が付いているあいさつ表現と同様に、相手の存在を認めたことを表すと同時に、相手に尊敬の気持ちを表す意味合いもある。ただし、水谷 (1979: 5-6) が指摘したように、「こんにちは」は自分の仲間というよりはソトの人に対して使うあいさつであり、形式にこだわる言い方であるため、「こんにちは」のような丁寧体の形をとらないあいさつ表現を使用する場合、相手の NF への配慮の度合いが比較的高いと考えられる。

3.2 調査概要

日本人学生と中国人学生における別れのあいさつの使用実態を把握するため、2015年11月1日から11月26日にかけて、以下の場面1と場面2の2つの出会いの場面³を設定し、20代を中心とする日本人学生130名と中国人学生101名を対象に、以下の場面1と場面2の2つの出会いの場面を設定した無記名での自由記述式調査を実施した。

場面1. 午前11時ごろ、大学の廊下でその日初めて以下の日本人に出会ったら、あいさつをするか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをするか。

場面2. 平日お昼の12時半ごろ、キャンパスで食堂に向かう途中、その日初めて以下の日本人に出会ったらあいさつをするか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをするか。

上述の場面1と場面2における「以下の日本人」には、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「親友」、「あまり親しくない先輩」、「親しいと思う先輩」という5つの対人関係を設定し

ている。「あまり親しくない」については、「話をしたことはあるが、プライベートなことまで話題にしない／しそうもない」、「親しい」については、「プライベートなことも話せる／話せそう」と規定し、そのことを調査票に付記した。また、日本人学生と中国人学生における実際の学校生活に近い場面を作り、現実に近いデータを収集するため、場面1においては「大学の廊下」という場所を、場面2においては「食堂に向かう途中」という場所を設定した。調査対象のインフォーマントの情報を表2に示す。

表2 インフォーマント

調査対象	所属	男性	女性	合計
日本人学生	東北大学・東北学院大学	85人	45人	130人
中国人学生	貴州大学・貴州師範大学・貴州財経大学	30人	71人	101人
	合計	115人	116人	231人

日本人学生は、上記の大学に在籍中の1、2年生を中心とする中国語ができない学部生である。中国人学生は、上記の大学に在籍中の日本語ができない1年生から4年生の学部生である。

4. 調査結果および考察

4.1 あいさつの有無

同一の場面で、相手に出会った場合、あいさつをするかどうかは、対人関係によって異なる。下記の表3と表4が示しているとおり、その日はじめて「親友」か「親しいと思う先輩」に出会った場合、日本人学生にせよ中国人学生にせよ、必ずあいさつをするが、「親しいと思う先生」か「あまり親しくない先輩」、特に「あまり親しくない先生」に出会った場合、日本人学生と中国人学生の反応は大きく異なっていた。

表3によると、「あまり親しくない先生」に出会ったとき、半数以上の日本人学生はあいさつをしないのに対して、9割以上の中国人学生はあいさつをしている。また、「あまり親しくない先輩」にあいさつをしない日本人学生は21人(16%)いるのに対して、中国人学生は3人(3%)にすぎない。表4も、ほぼ同様の傾向を示している。角変換法(逆正弦変換法)による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、表3における母語話者別の主効果($\chi^2(1)=47.95486$)と表4における母語話者別の主効果($\chi^2(1)=84.88068$)が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面1にせよ場面2にせよ、あまり親しくない先生と先輩が対象である場合、日本人学習者と中国人学習者の間に有意差があることを確認した。

表3 場面1においてあいさつをする大学生

調査対象	あいさつをする				単純主効果検定
	日本人学生		中国人学生		
	人数 (130人中)	割合	人数 (101人中)	割合	
対人関係					
あまり親しくない先生	53	41%	98	97%	112.9712**
親しいと思う先生	120	92%	101	100%	17.95045**
親友	130	100%	100	99%	2.25773
あまり親しくない先輩	109	84%	98	97%	13.13489**
親しいと思う先輩	130	100%	100	99%	2.25773

(** p < .01, * p < .05)

表4 場面2においてあいさつをする大学生

調査対象	あいさつをする				単純主効果検定
	日本人学生		中国人学生		
	人数 (130人中)	割合	人数 (101人中)	割合	
対人関係					
あまり親しくない先生	46	35%	99	98%	142.7532**
親しいと思う先生	120	92%	101	100%	17.95045**
親友	130	100%	101	100%	0
あまり親しくない先輩	107	82%	99	98%	19.50388
親しいと思う先輩	130	100%	101	100%	0

(** p < .01, * p < .05)

上記の結果は、その日はじめて偶然相手に出会った場面において、日本人学生と中国人学生におけるあまり親しくない上位者に対する配慮の仕方が異なることが原因であると考えられる。

表3と表4からわかるように、日本人学生は、出会いの場面で、あまり親しくない上位者に対してあいさつをしない傾向が見られる。しかし、あまり親しくない先輩と比べると、あまり親しくない先生にあいさつをしない傾向がより顕著である。この点から、日本人学生においてはあまり親しくない先輩より、あまり親しくない先生のNFに配慮する度合いが高いといえるだろう。今回の日本人学生に対する調査は学部1年生と2年生⁴を主対象としているため、学生はゼミや専門科目といった少人数の講義よりも、大人数で受講する傾向が高く、自分がその先生のことを知っていても先生は自分を認知しているかどうかわからない。その先生が自分を認知している可能性が皆無なわけではないが、認知していない場合その先生にあいさつすると邪魔になる恐れがあるので、それを避けるためあいさつをしないことがある。この場合、学生におけるその先生のNFに対する配慮が生じているといえる。一方、学生は、先輩と一緒に授業に出る機会はほとんどないが、授業以外の時間にサークルなどで先輩に接する機会が多く、先生と違って自分のことを知っているのであいさつをしないわけにはいかないケースが多いと考えられる。また、上記の結果から、日本人学生における先生のNFへの配慮と同時に、自分のNFへの配慮も窺える。たとえば、学生は、先生と年齢差があり、先生と接する機会も授業以外ほとんどないので、あまり親しくない先生に出会っても目が合わなければ、面倒くさい、恥ずかしいといった感情があつてあいさつをしないケースもあるのである。

それに対して、中国人学生は、出会いの場面において、あまり親しくない先生にもあまり親しくない先輩にも積極的にあいさつをする傾向が見られる。上記の表3と表4に示したように、出会いの場面において、あいさつをする場合、あまり親しくない先生と先輩に対しても、あいさつをしない中国人学生はほとんどいない。これは、中国人学生におけるPFへの配慮の傾向があるためであると考えられる。上記の表1に示しているように、あいさつをする場合、すべてのあいさつには「PFへの配慮」が含まれている。また、前述のように、PFとは「他の人に好かれたい、認められたい、尊敬されたい、評価されたい」という欲求である。中国人学生は、先生と先輩にある「教え子と後輩に尊敬されたいという欲求」および自分にある「先生と先輩に好かれたい、評価されたいという欲求」を満たすため、積極的にあいさつをするのである。つまり、中国人学生があまり親しくない先生や先輩にも積極的にあいさつをするのは、自他のPFに対する配慮の現れであるのではないかと考えられる。

4.2 対人関係によるあいさつの違い

対人関係には、「上下」や「親疎」などがある。言葉の対人関係による使用の違いは、言葉を使用する際、「上下」や「親疎」などの対人関係の要素を考えながら使い分けることによって生ずるものである。これについては、表5と表6に示す出会いのあいさつ表現の使用から窺える。

表5に示したように、日本人学生は場面2において、親しいか親しくないかに関わらず先生と先輩に対しては「おはよう(～)」をほとんど使用しないが、親友に対しては比較的多く使用している。また、場面1と場面2において、日本人学生は親しいと思う先生と先輩に対してはある程度「こんにちは」を多く使用しているが、親友に対してはほとんど使用しない。

表5 日本人学生における出会いのあいさつ表現の使用⁵

出会いのあいさつ 対人関係	おはよう(～)		こんにちは		お疲れ(～)		会釈・お辞儀		その他	
	場面1	場面2	場面1	場面2	場面1	場面2	場面1	場面2	場面1	場面2
あまり親しくない先生	17	1	16	26	3	3	21	11	1	0
親しいと思う先生	52	8	54	93	7	11	14	16	2	5
親友	56	33	3	5	13	19	0	0	87	89
あまり親しくない先輩	26	5	31	44	29	34	27	27	6	9
親しいと思う先輩	37	10	42	67	35	39	10	11	17	25

表6 中国人学生における出会いのあいさつ表現の使用⁶

出会いのあいさつ 対人関係	(～) 早		(～) 好		(～) 辛苦了		会釈・お辞儀		その他	
	場面1	場面2	場面1	場面2	場面1	場面2	場面1	場面2	場面1	場面2
あまり親しくない先生	7	0	77	75	0	0	5	3	24	33
親しいと思う先生	5	0	56	34	0	0	2	1	67	93
親友	2	1	1	1	0	0	0	0	113	109
あまり親しくない先輩	0	0	56	49	0	0	6	4	48	58
親しいと思う先輩	0	1	32	20	0	0	0	0	87	96

あいさつ表現の対人関係による使用の違いは、日本人学生に限らず、中国人学生の使用実態からも窺える。表6が示しているように、場面1と場面2において、親しいか親しくないかに関わらず、先生と先輩に対しては「こんにちは」に当たる中国語表現「(～)好」を比較的多く使用しているが、親友に対してはほとんど使用しない。

日本人学生と中国人学生における先生と先輩に対するあいさつ使用の差異については、「おはよう(～)」と「(～)早」および「こんにちは」と「(～)好」を例として以下の4.2.1節と4.2.2節で述べる。

4.2.1 「おはよう(～)」と「(～)早」

日本人学生におけるあいさつ表現「おはよう(～)」と中国人学生におけるあいさつ表現「(～)早」の使い方を見ると、対人関係による使用の違いが顕著である。

表7に示すように、あまり親しくない先生に対して、「おはよう(～)」とあいさつする日本人学生も「(～)早」とあいさつする中国人学生も共にごく少数派だが、親しいと思う先生、親友、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に「おはよう(～)」とあいさつする日本人学生は二割から四割ほどにのぼるのに対し、「(～)早」とあいさつする中国人学生はほとんどいない。また、表8から、午後12時半ごろに親友に対し「おはよう」とあいさつする日本人学生も決して少なくはないのに対して、「(～)早」とあいさつする中国人学生はほとんどいないことがわかった。

表7 場面1における「おはよう(～)」と「(～)早」の使用

調査対象 対人関係	おはよう(～)		(～)早		単純主効果検定
	人数(130人中)	割合	人数(107人中)	割合	
あまり親しくない先生	17	13%	7	7%	2.439501
親しいと思う先生	52	40%	5	5%	48.16374**
親友	56	43%	2	2%	75.07962**
あまり親しくない先輩	26	20%	0	0%	48.85746**
親しいと思う先輩	37	28%	0	0%	71.96947**

(** p < .01, * p < .05)

表8 場面2における「おはよう(～)」と「(～)早」の使用

調査対象 対人関係	「おはよう(～)」		(～)早		単純主効果検定
	人数(130人中)	割合	人数(107人中)	割合	
あまり親しくない先生	1	0.8%	0	0%	1.752783
親しいと思う先生	8	6%	0	0%	14.28296**
親友	33	25%	1	1%	41.70352**
あまり親しくない先輩	5	4%	0	0%	8.855837**
親しいと思う先輩	10	8%	1	1%	7.475974**

(** p < .01, * p < .05)

角変換法(逆正弦変換法)による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、表7における母語話者別の主効果($\chi^2(1) = 213.0745$)と表8における母語話者別の主効果($\chi^2(1) =$

59.6584) が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表7に示したように、対象者が親しいと思う先生、親友、先輩である場合、日本人学生と中国人学生の間には有意差があることを確認した。また、表8に示すように、親友が対象である場合にも、日本人学生と中国人学生の間には有意差が見られた。

場面1において、日本人学生があまり親しくない先生に対して、「おはようございます」をほとんど使用しないのは、前掲の表3に示したように、場面1において半数以上の日本人学生があまり親しくない先生にあいさつをしないことに起因している。

また、あまり親しくない先生以外の人に対して、「おはよう(～)」とあいさつする日本人学生が比較的多いのに対して、「(～)早」とあいさつする中国人学生がほとんどいないのは、日本語の「おはよう(～)」と中国語の「(～)早」における時間帯による使用制限の違いによるものであると考えられる。日本語の「おはよう(～)」には通常、時間による使用制限があるが、場面によってこの使用制限がなくなるケースがある(丁2016:75)。それに対して、中国では「(～)早」は、大体朝8時か9時頃までに使用される表現であり、午後になってもまだ「早(上好)」とあいさつすれば、「朝寝坊」と皮肉を込めて言っているようであるとされる(彭:1990)。場面1も場面2も午前11時ごろ以降の時間設定であるため、中国人学生が「(～)早」をほとんど使用しないのは当然である。その代わりに、中国人学生は親友に「吃(飯)了吗(食事は済んだ?)」、「吃饭去(一緒にご飯を食べよう)」のような食事に関する表現を使用する傾向が顕著である。

また、日本人学生が場面2において親友に対して「おはよう」を多用しているのは注目に値する。速司(2004)は日本語の「おはよう」というあいさつ表現を時間帯意識の「おはよう」、儀礼的な「おはよう」、ウチ意識の「おはよう」、はじまり意識の「おはよう」という4つに区分している。曲他(2010:41)が述べているように、1日のスタート時点で発せられた「おはよう」は、はじまり意識の「おはよう」であり、ウチ意識の「おはよう」でもある。午後12時半頃日本人学生が親友に使用している「おはよう」もまた、はじまり意識・ウチ意識の現れであり、PPSとして用いられていると考えられる。

4.2.2 「こんにちは」と「(～)好」

日本人学生における「こんにちは」と中国人学生における「(～)好」の使用には、対人関係による使用の違いの差異がほとんど見られない。

表9 場面1における「こんにちは」と「(~)好」の使用

調査対象 対人関係	「こんにちは」		「(~)好」		単純主効果検定
	人数(130人中)	割合	人数(101人中)	割合	
あまり親しくない先生	16	12%	77	76%	112.3734**
親しいと思う先生	54	42%	56	55%	4.428458
親友	3	2%	1	1%	0.634396
あまり親しくない先輩	31	24%	56	55%	24.71928**
親しいと思う先輩	42	32%	32	32%	0.010185

(** p < .01, * p < .05)

表10 場面2における「こんにちは」と「(~)好」の使用

調査対象 対人関係	「こんにちは」		「(~)好」		母語話者別の 主効果検定
	人数(130人中)	割合	人数(101人中)	割合	
あまり親しくない先生	26	20%	75	74%	0.470937ns
親しいと思う先生	93	72%	34	34%	
親友	5	4%	1	1%	
あまり親しくない先輩	44	34%	49	49%	
親しいと思う先輩	67	52%	20	20%	

(** p < .01, * p < .05)

表9と表10に示すように、場面1においても場面2においても、日本人学生は、先生と先輩に対してはある程度「こんにちは」を使用しているものの、親友に対してほとんど使用していない。中国人学生も同様の傾向を示している。場面1において、親友に「こんにちは」を使用する日本人学生と「(~)好」を使用する中国人学生はそれぞれ3人(2%)と1人(1%)にすぎない。また、場面2も同様の傾向を示している。

角変換法(逆正弦変換法)による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、表9における母語話者別の主効果($\chi^2(1)=62.80868$)は有意であったが、表10における母語話者別の主効果($\chi^2(1)=0.470937$)は有意ではなかった。さらに、表9に対して単純主効果検定を行ったところ、あまり親しくない先生と先輩が対象である場合、日本人学生と中国人学生の間には有意差があることが確認できた。

あまり親しくない先生に「こんにちは」とあいさつする日本人学生が少ないという結果になったのは、前掲の表3および表5が示している通り、場面1においてあまり親しくない先生にあいさつをしない日本人学生が多く(77人(59%))、「こんにちは」の代わりに[会釈]と「おはようございます」を使用する者が多い(それぞれ21人(16%)と17人(13%))ためである。一方、表5に示したように同一の状況であいさつをしない中国人学生はほとんどおらず(3人(3%))、[会釈]と「おはよう(〜)」に当たる中国語表現「(~)早」を使用する者も少ない(それぞれ5人(5%)と7人(7%))。そのため、中国人学生があまり親しくない先生に使用するあいさつは「(~)好」が相対的に多くなる。

また、あまり親しくない先輩に対して、「こんにちは」とあいさつする日本人学生の比率が「(~)好」とあいさつする中国人学生より低いという結果になったのは、場面1においてあまり親しくない先

輩にあいさつをしない日本人学生が比較的多く (21人 (16%))、「こんにちは」の代わりに「お疲れ様です」、「おはよう(～)」、「会釈・お辞儀」を使用する者が多い(それぞれ29人(22%)、26人(20%)、26人(20%))ためである。同一の状況であいさつをしない中国人学生はほとんどおらず(3人(3%))、「会釈・お辞儀」をする人も少なく(6人(6%))、「おはよう(～)」に当たる中国語表現「(～)早」と「お疲れ(～)」に当たる中国語表現「(～)辛苦了」を使用する者は皆無である。結局の所、中国人学生はあまり親しくない先輩には「(～)好」を比較的多く使用することになる。

4.2.3 「おはよう(～)・「こんにちは」と「(～)早」・「(～)好」

「おはよう(～)」には常体としての「おはよう」と丁寧体としての「おはようございます」という2つの表現が含まれている。表11が示しているように、場面1において、日本人学生は、親友には「おはよう」とあいさつするが、先生と先輩にはこの表現はほとんど用いない。同様の状況で日本人学生は、先生と先輩には「おはようございます」ということが多いが、親友にほとんどいわない。一方、「こんにちは」には常体と丁寧体というような区別がないが、表11に示したように、日本人学生は「こんにちは」を比較的改まったあいさつ表現として先生と先輩に比較的多く使用するが、親友にほとんど使用しない。

表11 おはよう(～)・「こんにちは」と「(～)早」・「(～)好」の使用

場面1	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「おはようございます」(17) 「こんにちは」(16)	「(～)老师,早(上好)」(7)「(～)老师(您好)」(76)「您好」(1)
親しいと思う先生	「おはようございます」(48)「(～)先生,おはようございます」(4) 「こんにちは」(52)「先生,こんにちは」(2)	「(～)老师,早(上好)」(5)「(～)老师(您好)」(54)「您好」(2)
親友	「おはよう」(56)「こんにちは」(3)	「早上好」(2)「你好」(1)
あまり親しくない先輩	「こんにちは」(31)「おはようございます」(26)	「(～)学长·学姐好」(54)「你好」(2)
親しいと思う先輩	「こんにちは」(42)「おはようございます」(37)	「(～)学长·学姐好」(31)「你好」(1)

(括弧内は人数)

それに対して、「おはよう(～)」と「こんにちは」に対応する中国語あいさつ表現「(～)早」と「(～)好」は日本語の「こんにちは」と同様で常体と丁寧体の区別がない。ただし、必要がある場合、敬称を付けることによって上位者に対する尊敬の気持ちを表すことができる。表11に示したように、場面1において中国人学生は親しいか親しくないかに関わらず先生に「(～)早」と「(～)好」を使用する場合、「(～)老师(先生)」という敬称を付ける習慣がある。敬称を付けない場合はないわけではないが、1例か2例にとどまっている。

4.3 学習者の困難点との関連性

以上、日中大学生を対象に出会いの場面においてあいさつするかどうか、およびあいさつする場

合どのようにあいさつするかについて、「おはよう(～)」と「(～)早」および「こんにちは」と「(～)好」を中心として検討した。その結果を以下の(1)から(3)に示す。

- (1) あまり親しくない先生に対してあいさつをする場合、日本人学生は自他のNFに配慮する傾向があるのに対して、中国人学生は自他のPFに配慮する傾向がある。
- (2) 午前11時以降親友に対して出合いのあいさつをする場合、日本人学生は「おはよう」をPPSとして(午後でも)比較的多く使用するのに対して、中国人学生は、「おはよう」に当たる中国語表現「(～)早」をほとんど使用しない。その代わりに、中国人学生は親友に「吃饭(飯)了吗(ご飯は済んだ?)」や「吃饭去(一緒にご飯を食べよう)」のような食事に関する表現を使用する傾向が高い。これは、「おはよう(～)」と「(～)早」が使われる時間帯の違いおよび、「おはよう(～)」がはじまり意識やウチ意識で用いられる場合があることによるものである。
- (3) あいさつの対人関係による使用の違いは、丁寧体の有無にも関わっている。日本語には丁寧体のある表現とない表現があるのに対して、中国語には丁寧体がない。その代わりに、中国人学生は対人関係によって、敬称を用いることがある。

本稿の冒頭で指摘した学習者の困難点は、上記の結果と関連性を持つと考えられる。困難点①(「おはよう(～)」と「こんにちは」に関する使い分けが困難である)は、学習者が「おはよう(～)」と「(～)早」における時間による使用制限の違いおよび日本人学生が「おはよう」をはじまり意識やウチ意識でも使用するということを十分に認識できていないためではないかと考えられる。また、困難点②(あまりよく知らない人に対してどのようにあいさつをすべきかわからない)は、中国人学生が母語の使用習慣(PFに配慮する傾向が顕著であること)による影響を受けているため、あまり親しくない先生に対してもあいさつをしなければならないと思い込んでいて、あまり知らない人に対してどのようにあいさつすればよいかわからなくなるのではないだろうか。困難点③(上位者に対してあいさつをする場合、敬語表現の使用を忘れやすい)は、敬語がない母語の影響に加えて、「おはよう(ございます)」のような丁寧体が付いているあいさつ表現と、「こんにちは」のような丁寧の形をとらないあいさつ表現が混在していることによるものであろう。

5. まとめ

以上、あいさつをするかしないか、および「おはよう(～)」と「(～)早」、「こんにちは」と「(～)好」を中心として、日本人学生と中国人学生における出合いのあいさつの使用に関する差異を明らかにし、その差異と学習者の困難点の関連性を検討した。あいさつをするかしないかについては、日本人学生はあまり親しくない先生に対しては、自他のNFへの配慮を示す傾向があるため、あまり親しくない先生にはあいさつをしないことが多い。それに対して、中国人学生は自他のPFに配慮する傾向があるため、誰に対しても積極的にあいさつをする。また、「おはよう(～)」と「(～)早」

の対人関係による使用の違いを見ると、日本人学生は親友に対し午後の時間帯でも「おはよう」をPPSとして多く使用するのに対して、中国人学生は、誰に対しても午前11時以降「おはよう(～)」に相当する中国語表現「(～)早」をほとんど使用しない。これは「おはよう(～)」と「(～)早」が使われる時間帯に違いがあるため、および「おはよう」がウチ意識で用いられることによるものである。一方、日本人学生が使用する「こんにちは」と中国人学生が使用する「(～)好」は、ほぼ同様の使用傾向を示していた。

出会いのあいさつの有無、対人関係による使用の違いのほか、あいさつの時間による使用制限や場面による使用制限についてもより詳細に考察する必要があるが、今後の課題にしたい。

注

- 1 中国語には、日本語における丁寧体に対応する形がない。「早」や「呼称+早」のような簡略化された定型表現および「吃了吗(ご飯は済みましたか)」のような非定型表現を使用する場合、相手に親近感を伝える意味合いがあるため、PFへの配慮の程度が高いと考える。
- 2 中国語における「早上好」「敬称+好」のような簡略化されていない定型表現を使用する場合、相手との距離をとろうとする気持ちがあるため、NFへの配慮の程度が高いと考える。
- 3 中国人学生に対して調査を行った際に使用した調査票は、日本語版を中国語に訳したものである。
- 4 学部1年生と2年生が出なければならぬ授業には、50人を超えるクラスが少なくない。また、調査した中国人学生については、1年生と2年生が半数弱で、3年生と4年生がやや多いが、中国の大学では、一般教養科目は卒業するまでの間に履修すればよく、3年生、4年生でも大人数のクラスに出ることが少なくない。
- 5 各調査対象から各項目に記入してもらった回答の数が実際の人数を超えることもあるが、これは複数回答を含むためである。また、「その他」には、「あいさつをしない」という回答は含まれていない。「会釈+こんにちは」のような例もないわけではないが、極めて少ないので「会釈」と「こんにちは」のそれぞれの一例として処理した。
- 6 回答数、「その他」、「会釈+こんにちは」などについては、注5を参照。

参考文献

- 曲志強・林伸一(2010)「日本語と中国語のあいさつ表現について—外国人研究者の特別授業より—」『山口国文』(33), 52-37.
- 施暉(2005)「「あいさつ」言語行動に関する日中比較研究—日本語のあいさつに対する中国人留学生の違和感について—」『広島国際研究』(11), 245-263.
- 施暉(2012)「日中両国語における「あいさつ言語行動」の異同について(1)—運用面での「上下」と「親疎」を中心に—」『中國學研究論集』(29), 70-64
- 钱万万(2010)「从日语寒暄语的误用谈跨文化交际能力的培养」『吉林省教育学院学报』9(30), 91-92
- 園田博文・奥村圭子・内海由美子・黒沢晶子(2006)「留学生と日本人学生の交流活動実践から見えてくるもの—「気づき」を通じた異文化間コミュニケーション能力の養成に向けて—」『山形大学紀要(教育科学)』14(1), 11-33.
- 滝浦真人(2008)『ボライトネス入門』研究社
- 丁尚虎・佐藤勢紀子(2016)「日本人学習者におけるあいさつの使用に関する困難点—中国人留学生を対象に—」『日語教育と日本学研究—大学日語教育研究国際研討会論文集(2015)』華東理工大学出版社, 73-76

- 中道真木男・石田恵里子 (1999) 「日本語学習者と『あいさつ』—日本語教育の場—with」『国文学—解釈と教材の研究—』44 (6), 118-125.
- 速司正成 (2004) 「あいさつ表現としての『おはよう』」全国語学教育学会・日本教育カウンセラー協会『山口支部研究紀要』(9), 135-149.
- 彭飛 (1990) 『外国人を悩ませる日本人の言語慣習に関する研究』和泉書院
- 水谷修 (1979) 『話しことばと日本人—日本語の生態—』創拓社
- 吉岡泰夫 (2011) 『コミュニケーションの社会言語学』大修館書店
- 劉静慧 (2010) 「出会いのあいさつ行動の対照研究—日本と台湾における大学生の使用実態の調査からの分析—」『東アジア日本語教育・日本文化研究』(13), 173-191
- Brown, P., & Levinson, S.C. (1987). *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press.

